

平成26年(2014年)2月14日
南岸低気圧による大雪
(奈良県などで大雪)

～ 「自らの命は自らが守る」 社会を支える取組 ～

大阪管区気象台



大雪による交通障害が多数発生

(有料道路や国道、一般道路で通行止め多数、鉄道やバスに運休や一部運休、航空便の欠航、停電や農業被害も発生)

【概要】

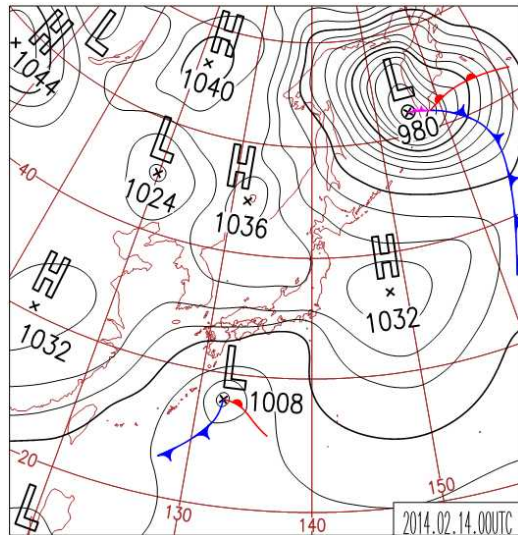
平成26年2月13日21時に沖縄近海で発生した低気圧が発達しながら日本の南海上を通過し、四国の南海上から関東の南岸を北東進した。この影響で奈良県内では14日未明から15日朝にかけて雪が降り続き、14日13時頃に奈良では15センチの積雪となるなど、大雪となった。

奈良における「降雪の深さ日合計」は、2月14日に17センチとなり、昭和38年3月13日の19センチに次ぐ極値順位2位となった(統計期間：昭和28年5月～)。また、「降雪の深さ日合計」は大阪と京都で4センチ、和歌山で6センチとなった。

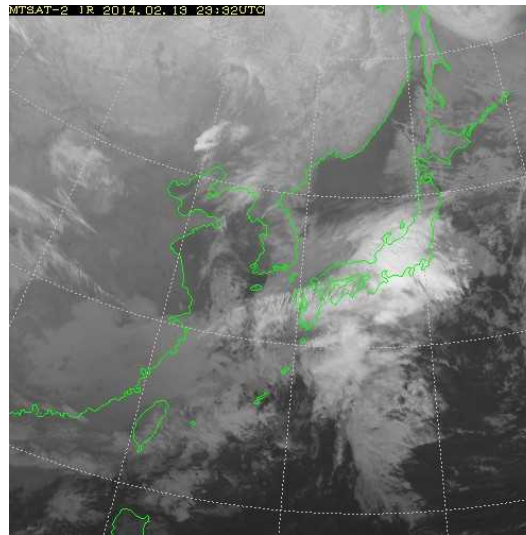
この大雪により、奈良県を中心に近畿地方の少雪地(大阪府、奈良県、和歌山県、京都府と兵庫県の一部)では有料道路や国道、一般道路の通行止めが多数発生したほか、鉄道も運休や一部運休、航空便の欠航などが発生した。また、転倒による負傷、農業施設や農作物への被害、停電なども発生した。
統計等は2020年12月25日現在です。



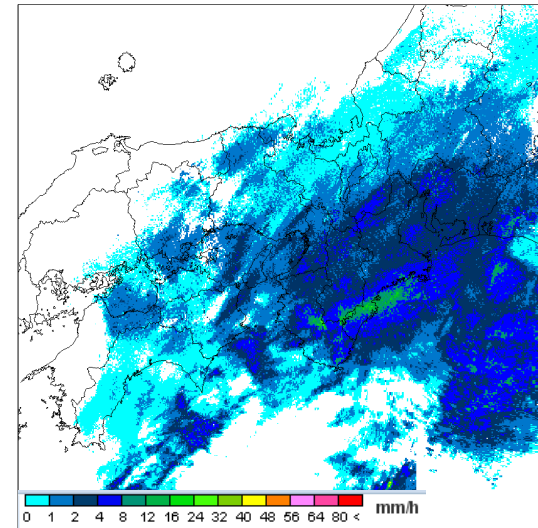
奈良地方気象台(奈良県奈良市)の積雪の状況
14日12時頃 撮影：奈良地方気象台職員
(奈良地方気象台は、平成29年3月9日に奈良市半田開町から奈良市西紀寺町に移転。この移設に伴う統計の切断はなし)



地上天気図
(平成26年2月14日09時)



衛星赤外画像
(平成26年2月14日09時)



気象レーダー画像
(平成26年2月14日09時)



平成26年(2014年)南岸低気圧による大雪

(平成26年2月14日)

大阪管区气象台
Osaka Regional Headquarters, JMA

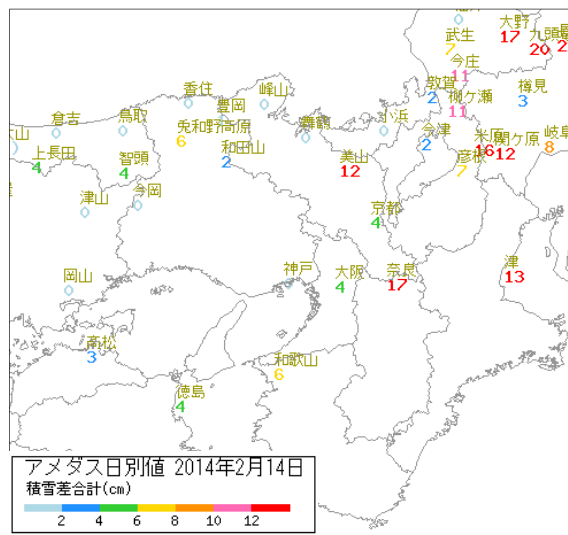
奈良県	要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
奈良	降雪の深さ日合計 (cm)	19 (1963/3/13)	17 (2014/2/14)	17 (1990/2/1)	14 (1984/1/31)	12 (1987/3/7)	12 (1984/2/17)	11 (2011/2/11)	11 (2008/2/9)	11 (1996/2/18)	11 (1977/2/10)



統計期間：1953年5月～

13時頃に積雪の深さが15センチに達する。降雪が08時～10時の3時間で9センチあり、この時間帯で強い雪となった。
(降雪量がおよそ3 cm/h以上は「強い雪」)

降雪量(平成26年2月14日の合計値)



雪がもたらす災害

積雪害	鉄道や道路に雪が積もり交通障害をもたらす。また交通障害に伴い、生活・企業活動への影響を及ぼす。農作物への被害など。
風雪害	吹雪によって視界が悪くなり、交通障害や事故をもたらす。
雪圧害	積もった雪の重みで家屋・施設が倒壊したり、果樹などの枝が折れて損傷する被害。
雪崩害	斜面の雪の一部が崩壊してもたらされる災害。
着雪害	湿った雪が送電線や通信線に付着して、その重みで断線したり、鉄塔や電柱などが倒壊する被害。また樹木等にも湿った雪が付着して、その重みで枝が折れて損傷する被害。

統計等は2020年12月25日現在です。